

[掲載紙] 読売新聞「先読み深読み」

[掲載日] 2012年8月2日

[テーマ] データで見る 猛暑、雷、景気

5月の前橋着任後、6月に台風直撃、7月には平年より早い梅雨明けと数多くの猛暑日を経験した。台風の6月日本上陸は2004年以来8年振りのことで、しかも今回は群馬県を直撃したため、地元の方々からは「数年に一度の出来事」と驚く声が聞かれた。一方、7月の猛暑は、群馬県では例年のことだそうで、「これからが夏本番」との冷静な反応が多い。確かに、前橋市の7月の猛暑日（気象庁データ）をみると、今年の8日は、昨年（9日）、一昨年（7日）並みだ。

群馬県の夏の風物詩としては雷が有名であり、「上毛かるた」にも「雷と空風 義理人情」の読み札がある。ところが、群馬県の雷日数は、過去30年平均（1981～2010年の年平均）で20.4日、全国順位も17位と、突出して多いわけではない。夏場に雷が集中する北関東地方の中で、雷日数が最も多いのは栃木県（24.8日）である。とはいえ、同じデータを最近5年間でみると、群馬県では年平均27.4日と過去30年平均よりもかなり多く、今年も7月までで20日に達している。「昔の雷は、今よりも大変だった」と語る地元の方が少なくないが、雷のすさまじさはともかくとして、発生日数は最近の方が多くなる。このように、データをみる場合、鮮度（最近の実績）にも注意を払う必要がある。

#### 雷日数

（1981～2010年の平均値）

全国順位	都道府県(観測地)	雷日数
1	石川(金沢市)	42.4日
2	福井(福井市)	35.0日
3	新潟(新潟市)	34.8日
4	富山(富山市)	32.2日
5	秋田(秋田市)	31.4日
10	栃木(宇都宮市)	24.8日
17	群馬(前橋市)	20.4日

※(出所)気象庁・気象統計情報

また、総合的に説明できないデータもある。猛暑を例に取ってみよう。前橋市の猛暑日は、最近2年間で観測史上ピークが続いた（10年の猛暑日27日は観測史上ピーク、11年は同23日と観測史上二番目）。また、群馬県の夏（7～9月）の熱中症による救急搬送人員（人口10万人当たり）をみると、10年が全国3位の56.81人、11年では全国最多の48.27人であった。

夏期(7~9月)の熱中症による救急搬送人員(人口10万人当たり)

全国順位	2010年		2011年	
	1	鳥取県	60.62人	群馬県
2	岡山県	57.89人	鳥取県	47.61人
3	群馬県	56.81人	新潟県	43.35人

※(出所)消防庁「平成23年夏期(7月~9月)の熱中症による救急搬送状況」

一方、家計調査(09~11年平均、全国51都市対象)をみると、前橋市では猛暑日が多かった割りに、ビール(全国40位)やアイスクリーム・シャーベット(34位)、ミネラルウォーター(25位)の購入金額が少なめとなっている。飲料・冷菓データは、猛暑以外の要因にも影響を受ける可能性がある。

日本銀行前橋支店では、県内の景気動向を調査している。様々なマクロ・データを分析・評価しているが、同時に、企業ヒアリング等を通じてマイクロ情報の収集を丹念に行い、マクロ・データとの整合性を検証するよう心掛けている。

雷のフランス語はエクレールであり、洋菓子エクレアの語源である。ダジャレで申し訳ないが、景気(ケーキ)と雷(エクレア)は意外な関連があるのかもしれない?

〔 日本銀行前橋支店長  
相良 雅幸 〕